

指揮 ハンスイェルク・  
シェレンベルガー

# 未完成「三帝」

「三帝」

「連金」

シューベルト:交響曲 第7番 ロ短調 D759

ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第5番 矢木長調 op.73

ベートーヴェン:交響曲 第5番 ハ短調 op.67



ピアノ:ピョートル・  
アレクセイヴィチ

第18回ショパン国際ピアノコンクール  
セミ・ファイナリスト

必聴!

新指揮者を迎えた  
ドイツの名門  
オーケストラが紡ぐ  
究極のドイツ音楽!

Berliner Symphoniker

# ベルリン 交響楽団

2023. 6.16 (金)

愛知県芸術劇場コンサートホール

18:45開演 (18:00開場)

全席指定(税込) S¥12,000 A¥9,000  
B¥7,000 C¥4,000

主催: CHUKYO TV

※出演者・曲目等変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

※未就学児のご入場はご同伴の場合でもお断りいたします。

[プレイガイド]

Chuチケ:<https://cte.jp/berlin2023/>  
052-308-8282 (平日11:00~17:00)



チケットぴあ:<https://t.pia.jp/> (Pコード:236-323)

愛知芸術文化センターPG:052-972-0430

ローソンチケット:<https://l-tike.com/> (Lコード:43401)

e+(イープラス):[eplus.jp](http://eplus.jp)

名鉄ホールチケットセンター:052-561-7755

セブン-イレブン、ローソン、ミニストップ、

ファミリーマート店頭

お問い合わせ 中京テレビクリエイション

052-588-4477 (平日11:00~17:00)

# ベルリン交響楽団 Berliner Symphoniker

ベルリンの音楽シーンを長年にわたり彩ってきた名オーケストラ。1961年のベルリンの壁設置以降、母体となるベルリン・シンフォニー・オーケストラとドイツ・シンフォニー・オーケストラが西側に位置していたが、東側の団員が参加できなくなったことで1966年に2つのオーケストラが合併し、首席指揮者カール・アウグスト・ビュンテのもとシンフォニー・オーケストラ・ベルリンが結成されて今に至る。1989年のベルリンの壁崩壊を経て現名称となった。

ベルリン・フィルハーモニーホールで行う定期公演では、モーツアルト、ベートーヴェン、ブラームスなど古典派・ロマン派のプログラムをメインに据えるとともに現代作品にも積極的に取り組んでいる。コンツェルトハウスほかベルリン内外的主要会場で公演を行うとともに、ベルリン音楽アカデミーと共同で様々な教育プログラムを実施するなど、「ベルリン市民のためのオーケストラ」として重要な地位を占めている。これまでにドイツの音楽祭はじめイギリスのプロムス他各国の主要音楽祭に招かれるほか南北アメリカ、アジア・アフリカ各国から招かれて世界的にツアーを行うなど、ベルリンの文化大使として国際的に活躍。2002年に初来日、これまで9度の来日では毎回各地完売を果たすなど人気を博している。



## ハンスイエルク・シェレンベルガー(指揮・オーボエ)

Hansjörg Schellenberger, Conductor • Oboe

1948年生まれ。大変な音楽好きの両親の元で育ち、早くから音楽に強い興味を持つた。13歳からオーボエを始め、その後、ミュンヘンとデトモルトにおいてオーボエ、指揮法、そして数学を勉強。ミュンヘンのARD コンクール(1972)を含む主要な音楽コンクールで入賞後、1971年にケルン放響のオーボエ奏者となり、1975年から1980年まで同団のソロ・オーボエ奏者を務める。1977年からカラヤン指揮ベルリン・フィルにエキストラとして参加するようになり、1980年1月から2001年夏までベルリン・フィルのソロ・オーボエ奏者を務める。退団後は、指揮者、ソリストの仕事を中心に活躍している。これまでにソリストとして、カラヤン、ジュリーニ、アッバード、ムーティ、レヴァインなどの著名な指揮者と共に演。室内楽奏者としては、アンサンブル・ウィーン=ベルリンを中心に多彩な活動を展開。また、1991年にはハイドン・アンサンブル・ベルリンを設立、芸術監督を務めた。

1994年から本格的な指揮活動を開始、これまでにザールブリュッケン・カイザースラウテルン・ドイツ放送フィル、カメラータ・ザルツブルク、エルサレム交響楽団、ムニシパッド・マドリード管弦楽団、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ管弦楽団、ローマ・サンタチエチーリア管弦楽団、NHK交響楽団、日本フィル、東京フィル、読響、名古屋フィル、京響、関西フィル、札響、岡山フィル、兵庫芸術文化センター管などを指揮している。2012年、2016年には、カメラータ・ザルツブルクを率いて日本ツアーを行い絶賛された。2013年度から2023年3月末まで岡山フィルの首席指揮者、2021／22シーズンよりベルリンシンフォニカの首席指揮者に就任した。

マドリッドのソフィア高等音楽院で教授、また、3年に1回開かれる国際オーボエコンクール・東京の審査委員長を1994年より務めている。

CDの録音は50枚以上にのぼり、ドイツ・グラモフォン、デンオン、ソニー・クラシカル、オルフェオといったレーベルからリリースされている。1997年からは、妻とともに自身のCDレーベル“カンパネラ・ムジカ”を設立し、ベルリン・フィルの仲間たちにも参加してもらい、多くの録音をリリースしている。

## ピョートル・アレクセイヴィチ(ピアノ)

Piotr Alexewicz, Piano

ショパンの故郷・ポーランド出身の期待の新星ピアニスト、ピョートル・アレクセイヴィチは、2021年の第18回フレデリック・ショパン国際ピアノコンクールのセミ・ファイナリストであり、ポーランド代表の中で最も評価の高い参加者に与えられるズビグニエフ・ジェヴィイエツキ教授賞を受賞し、同世代のポーランド人ピアニストの中で最も才能ある一人として知られている。

2000年、ポーランドのヴロツワフ出身。同地のカロル・リビンスキ音楽院でパヴェウ・ザヴァツキ教授にピアノを師事。ダン・タイ・ソン、アリエ・ヴァルディ、ジャック・ルヴィエ、ドミトリ・アレクセーエフ、ミハイル・ヴォスクレセン斯基など名ピアノ教師のマスタークラスに参加し師事。また、ルービンシュタイン国際ピアノコンクール(ドイツ)、ディヌ・リバティ国際音楽コンクール(ルーマニア)、ガニー国際コンクール(フランス)など多くの国際的なコンクールで受賞。毎年「ショパンと彼のヨーロッパ音楽祭」に出演し、それをはじめとするドゥシュニキ国際ショパン音楽祭、グダンスク国際音楽祭、ショパン国際音楽祭(パリ)などの多くの音楽祭で高い評価を得たほか、ドイツやフランス、英国、イタリア、デンマーク、イスス、ルーマニアなど世界各国で演奏会を開催し、好評を博した。さらにハワード・シェリー下野竜也、マレク・ピヤロフスキなどの多くの国際的な指揮者と共に演をされている。

録音も積極的に取り組んでおり、2019年にワルシャワのフレデリック・ショパン研究所からショパン、リスト、ベートーヴェンなどの作品を収録したデビュー・アルバムをリリース、話題を呼んだ。さらに2021年には2枚目のアルバムとして、ハワード・シェリー指揮のシンフォニア・ヴァルソヴィアとショパン作品のアルバムをリリースしている。